

ミニ図鑑 深田公園の植物

里山の樹木





アカマツ

マツ科

Pinus densiflora

常緑高木。名前は樹皮が赤いことから。葉は針形で尖るが海岸に多いクロマツほど硬くない。花期は4～5月。球果(松笠)は翌年の秋に熟す。建築材、杭木、燃料など材の用途は幅広い。



ヤマコウバシ

クスノキ科

Lindera glauca

落葉低木。日本には雌株しかなく雄株なしで結実する。花期は4月。花序と葉が同時に展開する。写真は展葉後で花期を過ぎている。名前は葉を揉んだり枝を折ったりすると香ることから。



ミツバアケビ

アケビ科

Akebia trifoliata subsp. *trifoliata*

つる性落葉木本。アケビの小葉が5枚で全縁なのに対し、本種は3枚で波状の鋸歯がある。花期は4～5月。花序の先に雄花、基部に雌花がつく。アケビは開け実で、熟すと開くことから。



ツタ

ブドウ科

Parthenocissus tricuspidata

つる性落葉木本。先が吸盤となったまきひげのほか、気根を出してよじ登る。花期は6～7月。ツタの3小葉になった葉と、かぶれやすいツタウルシの幼木の葉は似ているので要注意。



ネムノキ

マメ科

Albizia julibrissin var. *julibrissin*

落葉高木。名前は暗くなると葉が閉じて垂れ、眠っているように見えることから。写真は夕刻に撮影したもので、葉が閉じかかっている。花期は6～8月。桃紅色に目立つのは雄しべ。



フジ

マメ科

Wisteria floribunda

つる性落葉木本。別名ノダフジ。花期は4～5月。青紫色の花が次々に咲き、山をきれいに彩るが、他の樹木の上で葉を広げたり、幹を締めつけたりして枯らしてしまうこともある。



ナワシログミ

グミ科

Elaeagnus pungens

常緑低木。葉は革質でたくく、ふちが波打つ。裏面には銀色の鱗状毛が密生する。小枝はとげになりやすく、葉腋にもとげが出る。花期は10～11月。果実は翌年の5～6月に赤く熟す。



ヒメコウゾ

クワ科

Broussonetia monoica

落葉低木。花期は4～5月。新枝の上部に雌花序、基部に雄花序がつく。果実は液質で赤く熟す。甘い舌触りが悪い。和紙の原料とされるコウゾはカジノキとヒメコウゾの雑種といわれる。



ザイフリボク

バラ科

Amelanchier asiatica

落葉小高木。花期は3～4月。名前は「采振木」で、細長い花弁を采配に見立てたもの。別名シデザクラ。シデは玉串やしめ縄などに垂れ下げる白い紙の「四手」で、これも花にちなむ。



ウラジロノキ

バラ科

Aria japonica

落葉高木。葉の裏面に白い綿毛が密生し、名前の由来となっている。あらく切れ込んだ欠刻状の鋸歯も特徴的。低山から亜高山まで幅広く分布する。花期は5～6月。果実は赤く熟す。



カスミザクラ

バラ科

Cerasus leveilleana

落葉高木。花期は4～5月で、ヤマザクラやソメイヨシノより遅い。花弁は白色または淡い紅色をおびる。花柄や葉柄にふつう開出した毛がある。似たヤマザクラは無毛。



ウワミズザクラ

バラ科

Padus grayana

落葉高木。花期は4～5月。長く突き出た雄しべが花弁より目立ち、花序がブラシのように見える。蕾や若い果穂は塩漬にし、食用とされる。熟した実は果実酒に使われる。



クリ

ブナ科

Castanea crenata

落葉高木。花期は6～7月。写真で白く目立つのは雄花序。香りが強く、花粉は虫によって運ばれる。雌花は花序の基部につく。「いが」の部分がか殻で、熟すと割れ、栗の実が見える。



クヌギ

ブナ科

Quercus acutissima

落葉高木。各地で植えられ、薪や炭に使われた。現在はシイタケのほだ木としてよく用いられている。花期は4～5月で、果実（どんぐり）は2年目に熟す。殻斗には細長い鱗片がつく。



コナラ

ブナ科

Quercus serrata subsp. *serrata* var. *serrata*

落葉高木。花期は4～5月。殻斗にはうろこ状の鱗片がつく。裏表紙写真で縦割れの太い幹をもっているのが本種。松枯れで減ったアカマツに代わり、樹林の高木層を優占している。



アラカシ

ブナ科

Quercus glauca

常緑高木。花期は4～5月。殻斗は同心円状の模様をしている。葉は革質で厚い。刈り込みに強く、生垣にも使われる。将来コナラに代わり樹林の高木層で優占すると考えられる樹木。



アカシデ

カバノキ科

Carpinus laxiflora

落葉高木。葉の鋸歯のへりにさらに細かい鋸歯が出て重鋸歯となる。花期は4～5月。新葉が展開すると同時に開花する。写真には花期を過ぎた雄花序が写っている。



コマユミ

ニシキギ科

Euonymus alatus f. striatus

落葉低木。枝にひれ（板状の翼）のあるのがニシキギで、ないのがコマユミと呼ばれる。葉は濃い赤紫色に紅葉する。ニシキギは「錦木」で、この紅葉の美しさから。花期は4～5月。



ツリバナ

ニシキギ科

Euonymus oxyphyllus

落葉低木。花期は4～6月。花序の柄が長く、吊り下がるように咲く。果実は熟すと紅色に熟し、割れると橙色の仮種皮に覆われた種子が現れぶら下がる。美しく、庭園などに植えられる。



アカメガシワ

トウダイグサ科

Mallotus japonicus

落葉高木。名前の「赤芽柏」は新芽が赤く、大きな葉に食物をのせ使ったことにちなむ。花期は6～7月。雌雄異株で写真は雄株。種子は黒色で、土中で長く生存する埋土種子となる。



ゴンスイ

ミツバウツギ科

Euscaphis japonica

落葉小高木。葉は羽状複葉で2～5対の小葉があり、対生につく。花期は5～6月。花は黄緑色で目立たないが、果実は赤熟し、割れると黒光りした種子が現れぶら下がり、目を引く。



ヌルデ

ウルシ科

Rhus javanica var. *chinensis*

落葉小高木。葉は羽状複葉で軸に翼がある。花期は8～9月。雌雄異株で写真は雄株。ヌルデシロアブラムシが葉に寄生してできた虫こぶは五倍子と呼ばれ、薬や媒染剤に用いられる。



ヤマウルシ

ウルシ科

Toxicodendron trichocarpum

落葉小高木。葉は羽状複葉で4～8対の小葉がある。小葉は卵形で、幼木の時はあらい鋸歯が出る。花期は6～8月。雌雄異株で写真は雄株。果実には剛毛が生える。



ヤマハゼ

ウルシ科

Toxicodendron sylvestri

落葉高木。葉は羽状複葉で4～6対の小葉がある。小葉は楕円形で鋸歯はない。花期は5～6月。雌雄異株で写真は雄株。果実は無毛。本種の葉には毛があるが似たハゼノキの葉は無毛。



イロハモミジ

ムクロジ科

Acer palmatum

落葉高木。葉が「いろはにほへと」で7つに裂けることが名前の由来だが、5つや9つに裂けることもある。花期は4～5月。雌雄同株で、一つの花序に雄花と両性花が混ざる。



ウリカエデ

ムクロジ科

Acer crataegifolium

落葉小高木。雌雄異株で写真は雄株。花期は4～5月。花は淡い黄色で、若葉も輝きがあって美しい。葉の裂ける程度は様々。名前は緑色の樹皮をマクワウリの果皮に例えたことから。



ヤマボウシ

ミズキ科

Cornus kousa subsp. *kousa*

落葉小高木。花期は5～7月で、梅雨時に山を白く彩る。名前の「山法師」は、この白い部分(総苞)を頭巾に、中心の丸い花序を僧の頭に見立てたもの。実は赤く熟して甘い。



ウツギ

アジサイ科

Deutzia crenata var. *crenata*

落葉低木。花期は5～7月。枝が中空になるので空木、卯月(旧暦4月)に咲くので卯木・卯の花、また田植え花とも。刈り込みに強く、庭木や土地の境木として植えられる。



ヒサカキ

サカキ科

Eurya japonica

常緑の低木から小高木。花期は3～4月で、独特の強い臭いがある。雌雄異株で写真は雌株。ヒサカキの枝葉は神事に使われるサカキ（榊）の代用品として使われる地域もある。



タンナサワフタギ

ハイノキ科

Symlocos coreana

落葉低木から小高木。タンナは済州島の古名。サワフタギは「沢蓋木」で、沢を覆うように茂る意。花期は6月。果実は熟すと藍黒色になる。似たサワフタギの果実は青色に熟す。



エゴノキ

エゴノキ科

Styrax japonicus

落葉小高木。山の谷間などやや湿ったところに多い。花期は6～8月。白色の花が垂れ下がって咲く。果実はサポニンを多く含み有毒。名前は果皮がえぐいことからつけられたという。



リョウブ

リョウブ科

Clethra barbinervis

落葉小高木。樹皮がはがれ落ち、まだら模様になる。若葉は食用になる。天ぷらやまぜご飯、また茹でて乾かしてから保存し、救荒食として使われたという。花期は6～8月。



コバノミツバツツジ

ツツジ科

Rhododendron reticulatum

落葉低木。花期は3～4月。花は葉が広がる前に開き、春先の里山を紅紫色に染める。葉は枝先に3枚集まってつき、裏の網目模様が目立つ。本州中部から四国、九州にかけて分布する。



モチツツジ

ツツジ科

Rhododendron macrosepalum

半常緑低木。花期は4～5月。花は明るい紅紫色で、葉も同時に広がる。名前は萼や花柄にねばねばする毛がつくことから。近畿地方を中心に本州、四国でみられる。



ヤマツツジ

ツツジ科

Rhododendron kaempferi var. *kaempferi*

半常緑低木。春に出る春葉と夏以降に出る夏葉がある。花期は4～6月。花は朱色。北海道から本州、四国、九州にかけて分布する。花の色や形に変化があり、多くの品種が知られている。



アセビ

ツツジ科

Pieris japonica subsp. *japonica* var. *japonica*

常緑低木。花期は3～5月で、壺形の花を鈴なりにつける。有毒植物でシカの多いところでよく群生している。材は緻密でかたく、薪炭材のほか細工物に使われる。



ネジキ

ツツジ科

Lyonia ovalifolia var. *elliptica*

落葉小高木。花期は5～6月で、壺形の白い花が下向きに並んで咲く。有毒植物。若い枝は赤茶色で、塗り箸のような光沢があって美しい。名前は幹がねじれることから。



ナツハゼ

ツツジ科

Vaccinium oldhamii

落葉低木。葉の表面やふち、裏の脈上に粗い毛が多い。花期は5～6月。赤みをおびた淡黄緑色の花を下向きにつける。実は黒く熟して甘酸っぱく、食べられる。



カンサイスノキ

ツツジ科

Vaccinium smallii var. *versicolor*

落葉低木。名前のカンサイは「関西」で、本州、四国に分布する。スノキは「酸の木」で、葉を噛むと酸味を感じることから。花期は4～6月。実は黒く熟して甘酸っぱい。



アキシバ

ツツジ科

Vaccinium japonicum var. *japonicum*

落葉低木。若い枝は緑色で、ジグザグに曲がる。葉柄はほとんどない。葉の質は厚く、裏の細脈が目立つ。花期は6～7月。花冠は深く4裂し、渦巻き状に反り返る。実は赤く熟す。



マルバアオダモ

モクセイ科

Fraxinus sieboldiana

落葉小高木。葉は羽状複葉で1～3対の小葉があり、対生につく。鋸歯は低く目立たない。花期は4～5月。花冠が深く裂け、花序がブラシのように見える。雌雄異株で写真は雄株。



ネズミモチ

モクセイ科

Ligustrum japonicum var. *japonicum*

常緑小高木。葉はやや厚く全縁で、対生につく。花期は6月。果実は楕円形で黒紫色に熟す。中国原産のトウネズミモチは、葉がやや薄く葉脈が裏面から透けて見え、果実は球形に近い。



ヒイラギ

モクセイ科

Osmanthus heterophyllus

常緑小高木。若木の葉の縁に鋭いとげが出るが、老木では全縁となる。花期は11～12月。雌雄異株で、雄株と両性花をつける株がある。写真は雄株。果実は翌年の初夏に熟す。



ムラサキシキブ

シソ科

Callicarpa japonica var. *japonica*

落葉低木。花期は6～8月。実は紫色に熟して美しく、庭木によく使われる。葉は両面無毛。似た種にヤブムラサキがあるが、葉全体に柔らかい毛が多く、区別できる。



イヌツゲ

モチノキ科

Ilex crenata var. *crenata*

常緑小高木。まれに高木となる。岩場から湿地まで生育範囲が広い。花期は6～7月。雌雄異株で写真は雌株。果実は黒色に熟す。刈り込みに強く、庭木や盆栽に利用される。



ソヨゴ

モチノキ科

Ilex pedunculosa

常緑高木。葉は全縁で、ふちが波打つ。名前はやや硬い葉が風に吹かれてそよぎ、音を立てることから。花期は5～7月。雌雄異株で写真は雄株。果実は赤く熟して目立つ。



コウヤボウキ

キク科

Pertya scandens

落葉小低木。名前は高野山で枝を箒の材料にしたことから。花期は9～10月で、当年枝の先に頭花を一つずつつける。当年枝の葉は卵形だが、前年枝につく葉は細長く、形が異なる。



タラノキ

ウコギ科

Aralia elata

落葉小高木。若芽のタラノメは美味しい山菜。茎や葉にとげが多いが、とげの少ないものもあり、メダラと呼ばれる。花期は8月。花序の枝の上部に両性花、下部に雄花をつける。



タカノツメ

ウコギ科

Gamblea innovans

落葉高木。葉は3つの小葉に分かれる。秋に黄葉し、里山を彩る。若芽は山菜として食される。名前の「鷹の爪」は冬芽の形にちなむ。花期は5～6月。雌雄異株で写真は雄株。



コシアブラ

ウコギ科

Chengiopanax sciadophylloides

落葉高木。葉は5つの小葉に分かれ、秋に淡く黄葉する。若芽は美味しい山菜。名前の「漉し油」は樹脂から鉄のさび止めに使う油を採ったことから。花期は8～9月。



ハリギリ

ウコギ科

Kalopanax septemlobus subsp. *septemlobus*

落葉高木。葉は掌状に5～9裂する。名前は若い枝や幹にとげが出て、材がキリ（桐）に似ていることから。花期は7～8月。写真の赤紫色に見える部分は雄しべの葯。



カクレミノ

ウコギ科

Dendropanax trifidus

常緑高木。若木の葉は3～5裂するが、成木では分かれず、ひし形から卵形になる。名前はここの葉の形を民話の隠れ蓑に見立てたもの。花期は7～8月。写真では若い果実が目立っている。



コバノガマズミ

ガマズミ科

Viburnum erosum var. *erosum*

落葉低木。葉はミヤマガマズミよりも小さく細長い。両面に毛があり、触ると滑らかな感じがする。葉柄は短い。花期は4～5月。雄しべが花冠から長く突き出て目立つ。果実は赤く熟す。



ミヤマガマズミ

ガマズミ科

Viburnum wrightii var. *wrightii*

落葉低木。コバノガマズミよりも葉が大きく、ひし形から丸形で、表面はほとんど無毛。はっきりとした葉柄がある。花期は4～5月。似たガマズミの葉はより丸みが強く、毛が多い。



ツクバネウツギ

スイカズラ科

Abelia spathulata var. *spathulata*

落葉低木。花期は4～6月。名前のツクバネは萼片が残る果実を羽根（羽子）に例えたことから。放すと回りながら落ちる。アベリアの名で親しまれるハナツクバネウツギと同じ仲間。



ミヤマウグイスカグラ

スイカズラ科

Lonicera gracilipes var. *glandulosa*

落葉低木。先のふくらんだ毛（腺毛）が若枝、花柄、果実などに多くつく。花期は4～5月で下向きに咲く。果実は赤く熟し、甘みがあって食べられる。



【概要】 深田公園は人と自然の博物館の周りに広がる公園です。芝生広場のほか、樹林、草地、水辺など多様な環境があり、いろいろな生きものが暮らしています。この冊子では樹林でみられる身近な樹木とつる性の木本、計 56 種を紹介しています。科の並び順と学名は「改訂新版 日本の野生植物」に従っています。

【観察ポイント】 花期の写真を中心に載せています。花のほか、葉、枝、幹、全体の樹形なども観察してみましょう。芽吹き、新緑、開花、結実、紅葉、落葉、そして冬越しと四季の変化も見どころです。身近な樹木に親しむことで普段の散歩や休日の山歩きも一味違ったものになることでしょう。

【注意事項】 樹木は広場や園路から観察するようにしましょう。植物の中にはかぶれやすいウルシ科の樹木のように注意の必要なものがあります。毒成分を含むものもあるので果実などをむやみに口に入れてはいけません。風が強い時は枯れ枝の落下にも気をつけましょう。